

Joy of Design
sangetsu

SPACES
PROJECT BOOK

sangetsu

CASE.01

梓設計本社 HANEDA SKY CAMPUS

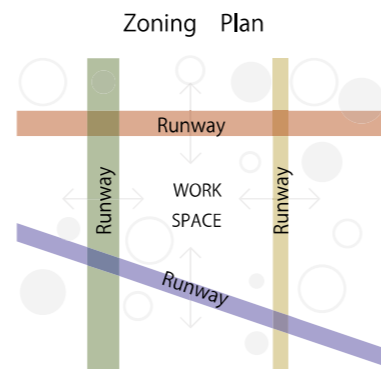
Project Manager KENSUKE ISHIDA

大型物流倉庫の大空間「床面積 5300 m²、高さ 6.6m」に約 450 名の社員が業務を行うメガプレートの執務空間が羽田に完成した。
移転前のオフィスは4フロアに跨り各セクションごとに部門が分かれていたが移転を機にワンフロアに全機能を集約。

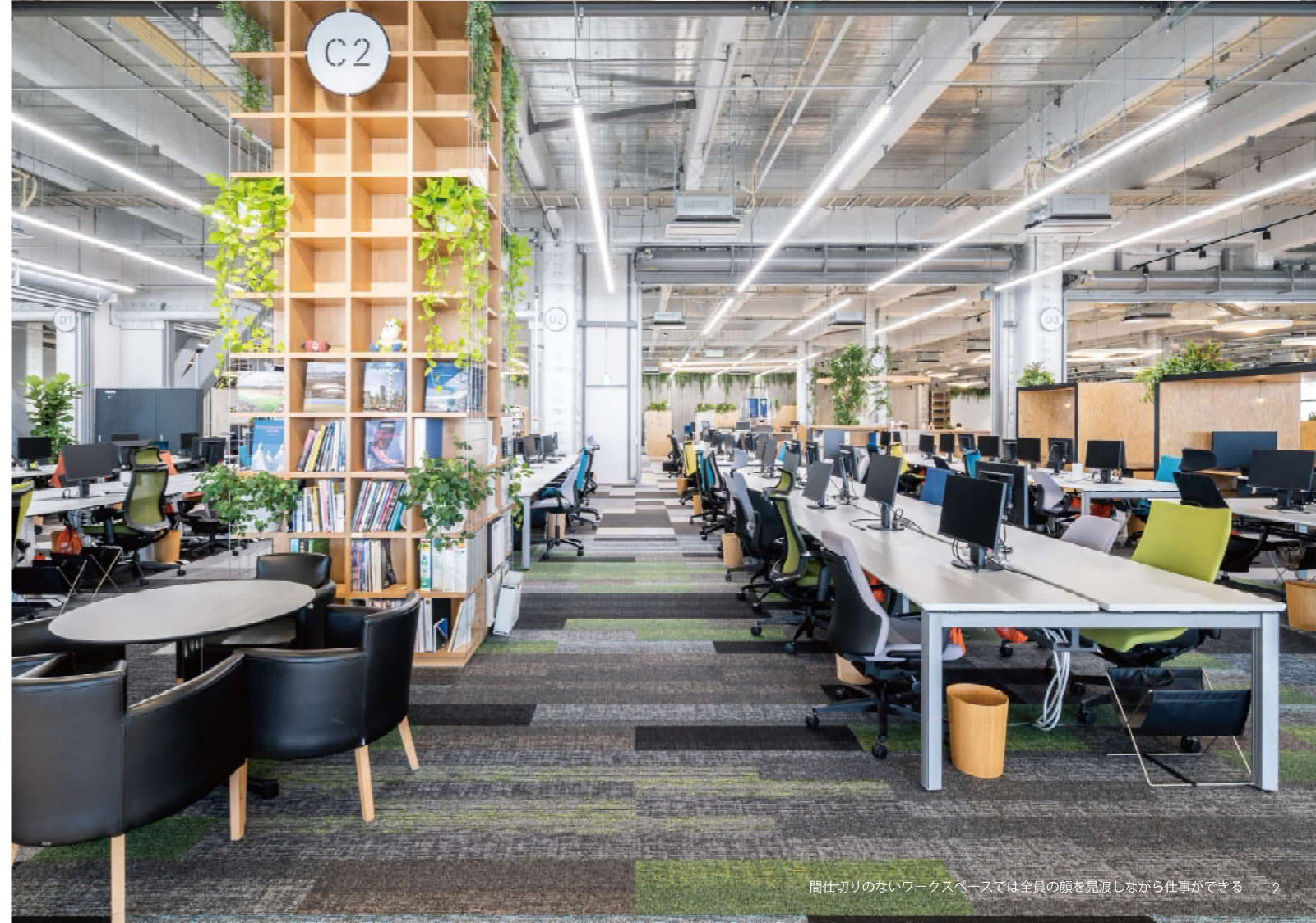


共有通路からエントランスをみる

大空間には「空港の梓」という企業アイデンティティが表現された計4本の象徴的な Runway (滑走路) が横断している。この広大なオフィスで、役員を含む全社員が状況に応じて場所を選択する「フリーアドレス制」で業務を行っている。さまざまなチームとの連携が不可欠な業務特性を考慮し、大空間に多種多様なオープンミーティングエリアを点在させることで円滑なコミュニケーションを可能なものとしている。

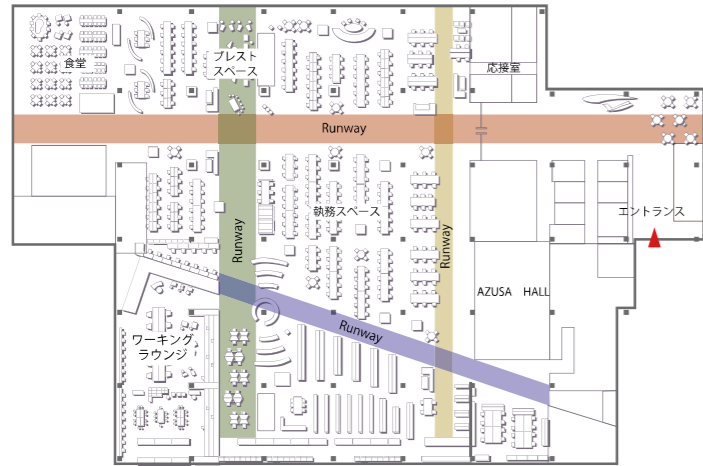


エントランスからの一直線に、100Mのびる空港をイメージした Runway



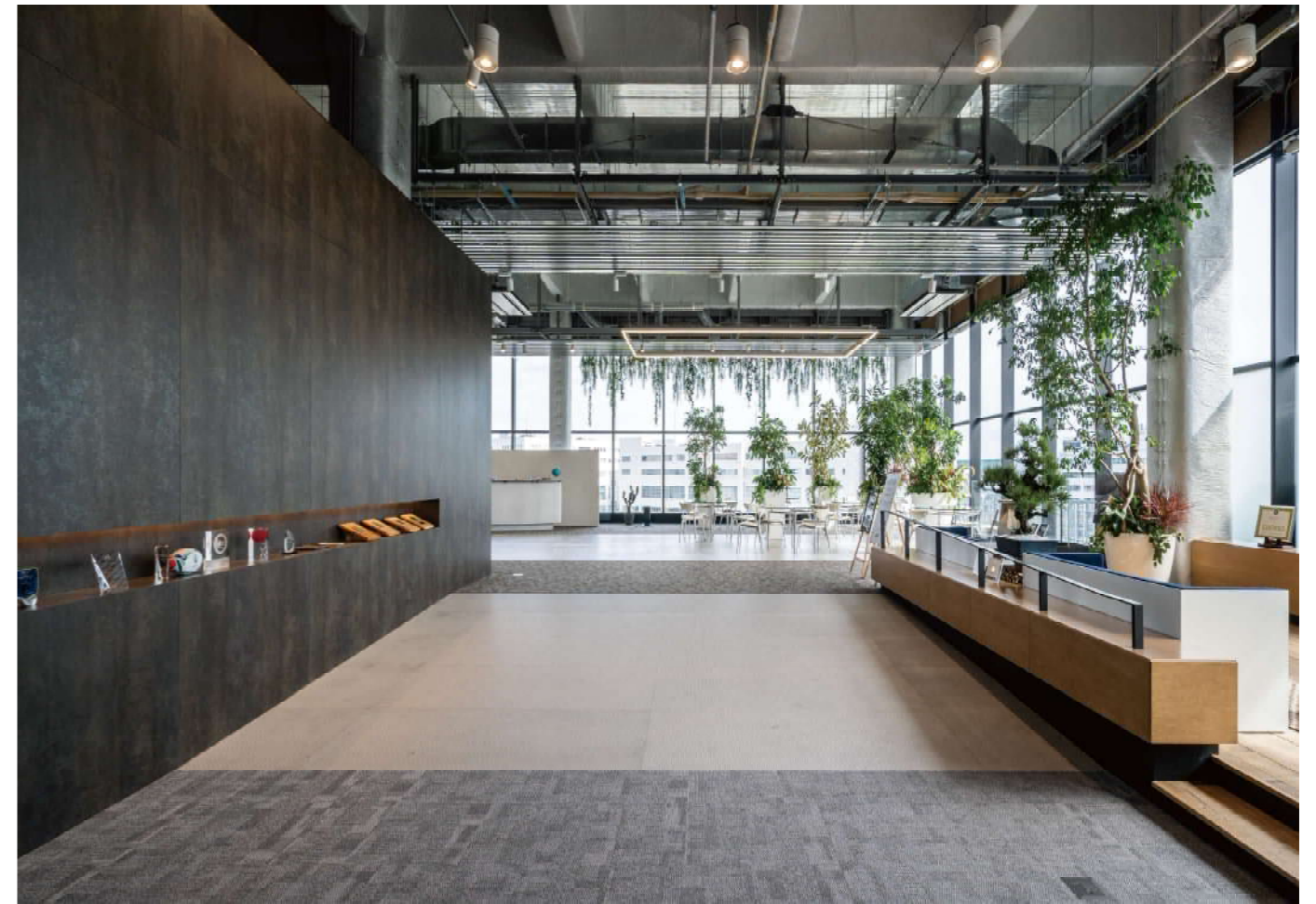
問仕切りのないワークスペースでは全員の顔を見渡しなが仕事ができる

平面図
(商店建築 2020 年 4 月号参照)

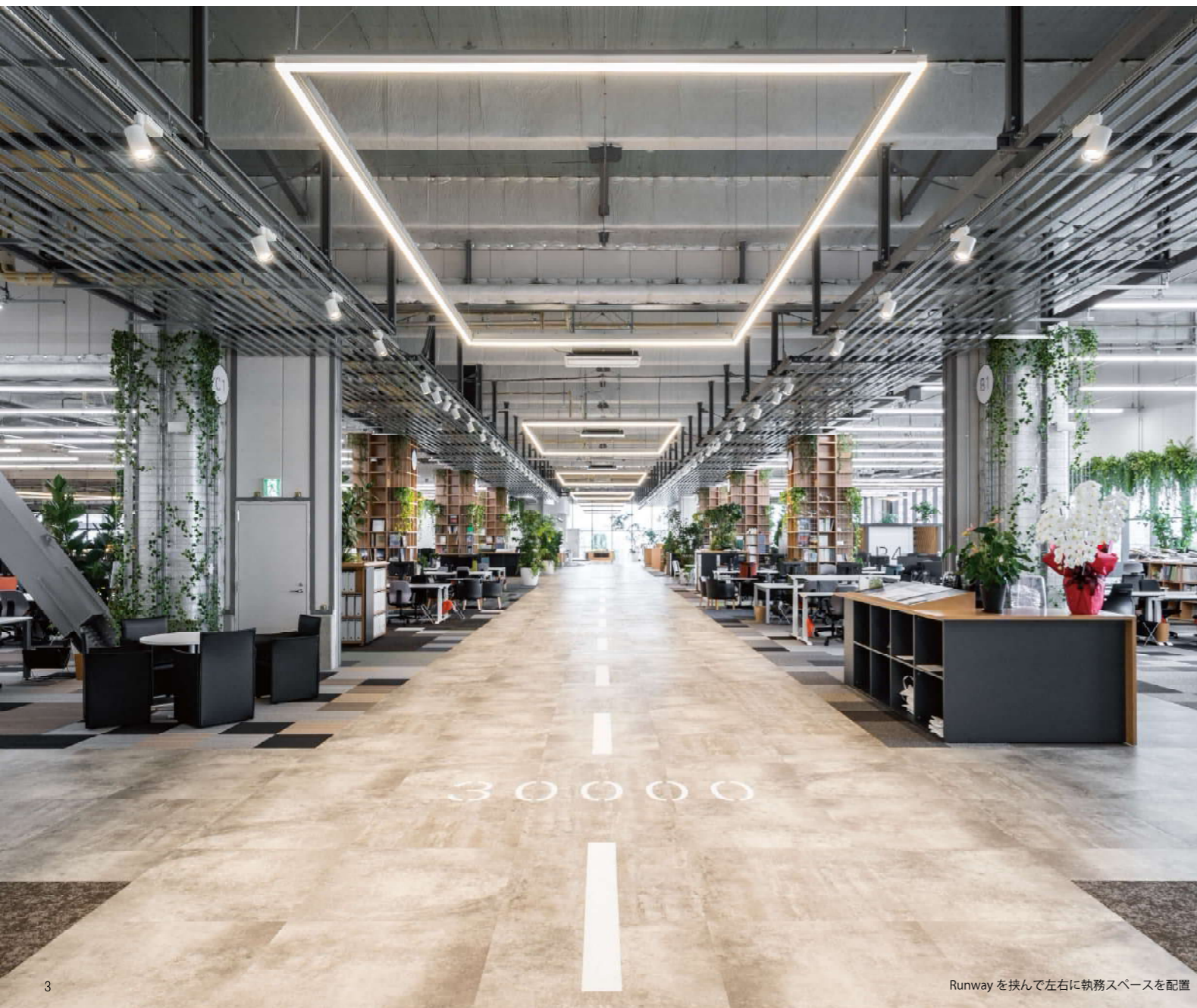


物流倉庫を活用した新しいオフィスのかたち

エントランスに入り左側には、飛行機の搭乗を待つラウンジのような高級感のある壁面を配置。オフィス空間への視線を遮り、壁の向こう側への期待感が高まる演出となっている。歩を進めると、徐々に受付カウンター、その先には応接室。広大なオフィスが見えてくる。



エントランスより左奥にオフィスが広がる



Runway を挟んで左右に執務スペースを配置



大判タイルが目を引く、天井高さ 4000mm の応接室



Φ1200mmの特注ペンダント照明が印象的なカフェテリア



ポップな色使いのミーティングエリア



トラックパースの高低差を利用したラウンジ



ホワイトボードの壁面に面したプレストスペース

広大な平面に広がるさまざまな居場所

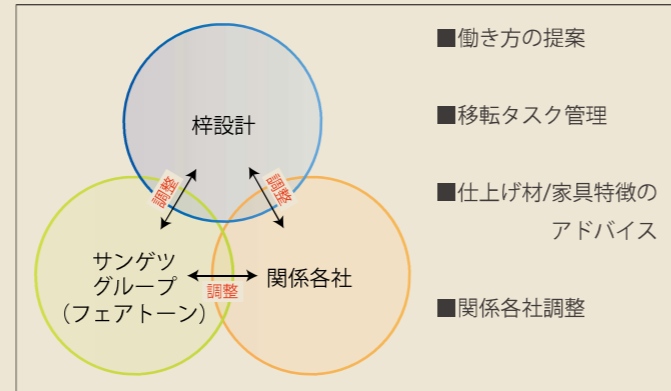
Runwayのつき当りには日の光が差し込むカフェテリアが配置され、垣根を超えたコミュニケーションが容易に取れる。エントランスからワークスペース、カフェテリアまで一体的な空間で展開するシークエンスは、本オフィスの魅力である。荷物積み下ろしのスペースであるトラックパースには、床の高低差を活かしアイレベルが変化した「ワーキングラウンジ」が計画された。ゆったりと座れる中央テーブルのほか、窓側を向く業務スペースなど、コミュニケーションを密に取れるエリアと、設計を進めるために集中できるエリアという性質の異なる空間が両立しており、さまざまなシーンがランドスケープのように一体空間の中で展開する。

株式会社梓設計さまとサンゲツ、サンゲツグループ会社のフェアトーンの3社で対談する機会をいただきました。



※写真撮影時のみマスクを外しています

サンゲツグループの関わり方



これまでの材料販売で完結するのではなく、オフィスづくりのお手伝いをさせていただきました。梓設計さま、関係会社さまとのさまざまな打ち合わせや関係各所の調整や工事関係者のメンバーとの協議も行い、皆さまと一緒にプロジェクト進行をさせていただきました。

梓設計の“成長フェーズ”と本社移転がマッチ

サンゲツ石田(以下石田)：御社がオフィスを移転してから、何か具体的な変化はありましたか？

梓設計齋藤氏(以下齋藤氏)：私が入社した6,7年前から考えると別の会社になったという印象です。オフィス移転もそう感じる理由の1つですが、組織体制の変更、コロナによる在宅勤務社員の増加も含め大きな変化を感じています。入社当時は固定席で上司の目の届く範囲で管理されているような、あるいは常に面倒をみてもらっているような印象でした。今は組織体制も10名程度の構成から1人のリーダーの元に50名のメンバーがいる構成に変わり、こじんまりとしたコミュニティから解き放たれたかたちとなりました。そこに加えてフリーアドレスの自由席+在宅勤務により、個人裁量の幅がかなり広がっています。働き方が個人に委ねられていることもあり、仕事に対する意識がかなり能動的になっています。単に新しいオフィスに移転したいというだけでなく、社員の意識にも大きな変化が生まれていると思います。

石田：フリーアドレスになったことにより、上司との(組織内の)コミュニケーションに変化はありましたか？

齋藤氏：必要な時に声を掛けられる状態にあるので、コミュニケーションに問題はありません。最近は新人、中堅、ベテランの三人一組でチームを組み仕事にとらわれず気軽に相談やコミュニケーションをとれる「メンターメンティ制」も導入し、会社に慣れない新人をフォローする仕組みも整えています。

梓設計山口氏(以下山口氏)：変化を最大限許容できる風土になっていると感じています。以前は、少し固いイメージがありましたがフリーアドレスから始まり、移転という職場環境の変化が良い方向に作用し、会社としてチャレンジしていく風土になったと思います。その姿勢が様々な賞の受賞にもつながり、社員のモチベーション向上にもつながっていると感じています。オフィスが変わると共に会社の風土も変化があったと解釈しています。

齋藤氏：確かに保守的な文化からチャレンジする組織文化へと変わった印象があります。

石田：フリーアドレスなどによる働き方の変化によって事務系社員の方々にどのような影響があったと感じていらっしゃいますか？

山口氏：事務系社員にとっては設計社員ともコミュニケーションがとりやすくなり、お互いに同じ空間で仕事をしていることが一体感の構成に繋がっています。

石田：プロジェクトを終了したから言える「感じることはありますか？」

齋藤氏：実は移転が発表された時点では反対意見もありました。その理由は主に立地によるものでした。その意味では荒波の中でスタートしたのでプレッシャーは感じており、悩んだ場面もありましたが、いざオープンした結果、「なんだかんた言っていいじゃん」という空気になり、そこはホッとしています。立地要因もコロナ禍による在宅勤務が進んだことで逆に気にならなくなりました。

石田：山口さんもプロジェクトが終了して感じることはありますか？

予算面等、その他の苦労はありましたか？

山口氏：予算は当然限度があるので、その中で上振れしないように調整していくのはそれなりの苦労がありました。

齋藤氏：プロジェクトのプロセスで言えば、進め方に困難も多くありましたが、当初言われていた8月オープンには間に合わせる事ができて良かったと思っています。移転初日、AZUSA HALLで朝礼をした際に社員が一同に集まってきた光景を見たときには本当に嬉しかったです。自分の設計した空間に多くの人が集まっていく様子を眺めることは、設計者としてこの上ない幸せな体験でした。

石田：私たちがこの規模の物件でキックオフの段階から最終完成まで関わらせていただけて良い経験をさせていただいたと感じています。

山口氏：3者(梓設計、サンゲツ、フェアトーン)の関係はすばらしかったと思います。手摺が間に合わず、エントランスはオープンの前日まで工事していましたが(笑)。

今回のプロジェクトにおいては自社で設計をしていたこともあり、その意味では自分たちの意識の持ち方としてもプロジェクト完成に寄与できたのではないかと考えています。



オープンミーティングエリアでのインタビュー風景

設計事務所だからできた、発注者と設計者の立場を超えたオフィスづくり

石田：プロジェクト進行中は、相当なボリュームの業務があったときいていいますか？

山口氏：カフェテリアなどの新設も含め、検討タスクの量が多く、かつ前例のないオフィスでしたので、その意味でペースとなるものがなく苦労はしました。

齋藤氏：発注者側(山口)、設計者側(齋藤)それぞれ膨大なタスクがあり、本来はそれぞれ独立した立場だと思うのですが、今回は発注者と設計者が一緒ということもあり、最後は立場を超えて山口と二人三脚でPJを完走したという印象です。収納計画など普段は設計でやらないことまでやったので、苦労はありましたが、そのおかげで良いオフィスになったのではと思いました。

山口氏：サンゲツさんはもともと内装材の販売業だけだと思っていましたが、フェアトーンさんもありますし、PM業務も対応可能で、複合的に対応できるサンゲツグループにプロジェクトの最初から関わっていただいたのは非常に助かりました。

フェアトーン秋山(以下秋山)：物件の工事依頼をいただいたことは大変感謝しています。

正直、物件が大規模でしたので受注当初は不安が先行していました。フェアトーン自体に工事実績はありましたので安心できる面もありましたが、最終的には梓設計さまに喜んでいただいたので安堵しています。

石田：仕上がり精度に関してはどのように感じていらっしゃいますか？

齋藤氏：特に造作家具の仕上がりは高く評価しています。

秋山：うれしい限りです。

フェアトーン香川(以下香川)：工事自体は塗装仕上げがかなり多かったのですが、多くの人工で対応しても一定精度の仕上がり維持できたと感じています。今回の物件は天井が非常に高いのですが、見えないところも高い精度で仕上げることができました。

齋藤氏：本棚を組み立てているときの苦労は、見ていましたのでよく認識しています。

石田：建築用途でいう「倉庫」であることが逆にいい方向に働いたかもしれないですね。



多目的に利用できるAZUSA HALL



さまざまなタイプのミーティングスペースが点在している

WELL 認証のプラチナを取得

石田：WELL 認証のプラチナは相当取得が困難かと思うのですが、どのようにクリアしたのでしょうか？また WELL 認証の取得のあるオフィスで働くことをどのように感じていますか？

山口氏：コンサル料等含め取得には一定の費用がかかります。また検討事項や課題も多く大変でした。

石田：加点のための昇降デスクの設置や、グリーンがあるなど、設計上、苦労はありましたか？

齋藤氏：照明や既製家具にも規定があり、それらを把握して取り込む苦労はありました。本当はオフィス照明らしさを消す意味で、アッパー照明をベースとしたかったのですが、照度の関係で叶いませんでした。

石田：運用する側の苦労はありますか？

山口氏：運用面では維持する項目の多さではありますが、WELL 認証の意義を社員にも浸透させていく仕掛けづくりが今後大事になると感じています。営業活動上でも WELL 認証について聞きたいという顧客の声もあり、良い影響があります。

石田：新本社に特徴的なものとして Runway があげられると思いますがどのような経緯で Runway にいきついたのでしょうか？

齋藤氏：粹設計らしさを感じさせる要素であると同時に、具体的な機能を定義付けないパブリックスペースのような空間がオフィスを縦横無尽に走っていたら面白いなと思いました。来客スペースからワークスペースと社員の働く姿が見えるというのが特徴的でオープンな空間となっています。

石田：オフィスの移転による新卒・中途採用への影響はありましたか？

山口氏：移転前は立地が立地なので、採用が厳しくなるのでは？という懸念もありましたが、今年の新卒採用過程でこんなオフィスで働きたいという学生さんが多く、非常に嬉しい結果となっています。

石田：自社オフィス移転ということで苦労した点はありますか？

齋藤氏：プロの設計者ばかりが集まる空間をデザインするというので、大変なプレッシャーでした。無事竣工し、社員にも気に入ってもらい本当にホッとしています。

石田：フリーアドレス導入から1年経ちますが、席の使用状況はいかがですか？

齋藤氏：1年経過すると、ある程度エリアの固定化は見受けられますが、毎日違う席に座るようにといったルールを決めるよりは、それくらい良いのかなと思っています。

石田：ちなみにご自身の好きな場所はありますか？

齋藤氏：広々と机が使える真ん中あたりですかね。

山口氏：仕事柄、上司の近くの席です。それからスカイツリーと東京タワーが一望できる席もお気に入りです。このオフィスは特に夜景がきれいで、羽田空港や東京タワー、川崎の工場地帯などが見えます。

石田：日経ニューオフィス賞「経済産業大臣賞」、日本空間デザイン賞「金賞」、グッドデザイン賞等、その他多数の受賞をされ、実際に苦労が形になって評価された点についてはどのように感じていらっしゃいますか？

齋藤氏：設計段階では設計に夢中で、賞の受賞など頭になかったので、受賞は素直に嬉しいです。

山口氏：今回多数の賞をいただいたことは、とても嬉しく思います。

石田：工事監理者側からみて、このオフィスをどのように感じていますか？

香川：1から10まで設計あつての計画の中で齋藤さんが常にいらっしゃって、すぐに問合せできる環境は大変ありがたく感じていました。そのため、プロジェクトを楽しんで進めることができました。

齋藤氏：私としてはチャレンジに対する不安が竣工が近くなるにつれて増えていきましたが、フェアートンさんに最後までサポートいただき大変感謝しております。

石田：今後、弊社がお手伝いさせていただける可能性はありますか？

山口氏：10年後の当社の移転ですかね。(笑)

石田：10年後はもっと大規模な移転でしょうか。(笑)

齋藤氏：都度、改装修工がありますので今後もお世話になると思います。



多種多様な床材を用いた執務スペース



個人作業ブース



高低差を活用したワーキングスペース



左から 石田 健介、山口 功二さま、齋藤 慎一さま、秋山 勝宏、香川 貴男
※写真撮影時のみマスクを外しています

オフィスづくりの貴重な経験

キックオフの段階から参加させていただき、新しい設計事務所の働き方への議論を重ね、抱えている課題や新しいオフィスへの挑戦等、働き方に対する変化を肌で感じることができました。デザインは粹設計さまで行っていただきましたので、設計のスペシャリストだったからこそ納まったプロジェクトだと思います。計画当初は夢で溢れる想像をプロジェクトメンバーの皆さまと共有していただきつつ、コスト整理では現実的予算と直面し、大きな変更が必要でした。既製品家具、造作家具も仕様の変更があり、意匠担当の齋藤さんも苦労されておられました。設計以外の部分でのお力になれないかと、これまでのオフィスづくりの経験を活かし、移転に係わるタスクの洗い出しやスケジュール感、多岐にわたる各協力会社との間に入りながら調整役として関わらせて

いただきました。キックオフの段階から1年ほどで完成となり、とても密な期間だったと思います。今回のプロジェクトにご協力できたことは、当社にとっても大きな財産となりました。この経験を今後活かしていきたいと思います。

スペースクリエーション事業部



株式会社粹設計
アーキテクト部門主任
齋藤 慎一さま



株式会社粹設計
コーポレート部門
総務部 グループリーダー
山口 功二さま



株式会社サンゲツ
スペースクリエーション事業部
スペースクリエーション課
石田 健介



フェアートン株式会社
秋山 勝宏



フェアートン株式会社
香川 貴男